

令和3年度 第1回健康づくり推進協議会 議事概要

- 開催日時 令和3年6月24日(木) 14時00分～15時45分
- 会議ツール ZOOM
- 出席委員 学識経験者2名、保健医療関係者2名、保険者代表、
被保険者代表、健康保険委員代表、愛知県健康増進部門関係者

《議題》

1. 愛知支部「健康宣言」コラボヘルスの推進について
2. 愛知支部の保健事業について

○議事概要

議題1 愛知支部「健康宣言」コラボヘルスの推進について

<保健医療関係者>

健康経営の取り組みは、経営者へのアプローチが課題だと考えている。

健康経営の取り組みに手を挙げてない会社だけでなく、健康経営に取り組んでいるが、成果がない、または、成果が少ない会社へもアプローチが必要だと思う。

企業にとって一番近い存在は、協会けんぽや商工会と思われるので、身近な存在と一緒に手をつなぎながら事業を進めていくのがいい。

<健康保険委員代表>

当社の健康経営の取り組みで効果のあったもののひとつが、学生に対するリクルート関係です。学生の親御さんも興味を持っておられ、当社が健康経営に真剣に取り組んでいることをアピールすると、高評価で安心して任せられるという声もいただいている。

協会けんぽから学生向けに健康経営のアピール・広報があると企業側にも効果があると思う。

<議長>

協会けんぽで行っている学生向けの健康経営関係の活動などがあれば紹介してもらいたい。

<事務局>

今年度から学生向けの活動を開始しています。

具体的には、愛知大学の学生に、健康経営を知ってもらうため、夏休みの時期に健康経営を実践している企業を取材してもらいます。そして、10月頃に、その取材成果を3回生に対してプレゼンテーションします。

3回生には健康経営についてよく知っていただき、健康経営に力を入れている企業も就職先を決める要素の一つとして考えてもらえたらと思っています。

始めたばかりで効果は不明ですが、若年層へのアピールは必要だと感じており、今後、ますますこのような活動を強化して行く考えです。

<議長>

何回生の学生を対象に行っているのか。また、授業の一環として行うのか。

<事務局>

授業の一環ではなく、学生が任意で参加するものです。参加する学生は1・2回生を対象としており、やる気のある人が積極的に参加する仕組みになります。

<学識経験者>

企業の価値は物などの有形資産で測るところから、人や技術の無形資産に変わりつつある。経営層も社員の健康が大切ということはわかっており、健康経営も自然に浸透していくと思っている。

どう訴えていくのかであるが、現在の日本は一人当たりの生産性が低いことが問題となっており、一人当たりのGDPも先進国の位置づけではなく、中進国の位置づけである。

たとえば、企業の生産性と社員の病気の相関性を示したレポートの作成や、具体的事例として、「この会社は健康だから業績が上がった」というものがあれば、普通のパンフレットと違い思わず読んでしまう。

<議長>

健康経営にかかるデータと業績はダイレクトにつながるというよりは、回りまわってつながってくるため、気付きにくいのだが、健康経営の優良企業は、経営者をはじめ担当される方が、健康経営と業績を関連付けされているため、その効果を認識して、いいフィードバックになっている。

そういった内容を、関係者にどう伝えていくかになってくるが、愛知県では、健康経営を進めていくうえでの課題・工夫などがありますか。

<愛知県健康増進部門関係者>

健康経営に取り組む企業をいかに増やしていくかを課題として考えている。

今年度から、協会けんぽの表彰制度と県の健康経営アワードと、今まで別々に取り組んでいたものを一緒に表彰するような取り組みを進めている。

少しずつ連携を増やしながら、お互いに取り組み企業を増やしていけたらと思っている。

<被保険者代表>

当社の新入社員の約 3 割が有所見と健診結果が悪く、若い人にも保健指導・栄養指導など食生活の改善などが必要だと感じている。

先ほど事務局からも話があったが、若い方へしっかりアプローチしていくことが大事である。

<議長>

健診結果が良くなかった原因は、リモートワークが多くなったなど、コロナの影響もありますか。

<被保険者代表>

外に出かける機会が少なくなったこととストレスの多さは感じている。

<保険者代表>

協会けんぽが行っている学生向けの活動は非常にいい取り組みである。

企業健康経営への理解・周知は進んでおり、就職先を選ぶ際の要素でその比重が増えれば増えるほど、企業側も対応しなければならないといった認識に繋がっていく。

また、健康経営参加企業を増やしていくうえで、敷居が高いと感じて、健康経営の宣言はしていないものの、健康経営に関する取り組みをしっかり行っている会社も多いと思う。

そのような会社へ「今、行っている取り組みは、すでに優良法人与同等ですよ」などといったような、気付き・促しでの導入方法も必要だと感じている。

<議長>

先程、新入社員が体調を崩しているという話があったが、それに関して健診機関の立場からどう思われますか。

<保健医療関係者>

健診全体で見ると、年齢別で若い方が極端に悪くなっているとは感じていない。

ただ、若い方にも人間ドックなどの詳細な健診を受診される企業は増えている。

<議長>

「健康宣言中」の定義とはどういったものか。例えば宣言中に何らかのリアクションがないと取り消されるようなものなのか。

<事務局>

健康宣言は途中で取り消すといったものではありません。

例えば、多忙で報告書が未提出であった場合でも、取り消しとはなりません。

議題2 愛知支部の保健事業について

<議長>

重症化予防で、受診勧奨はするものの、協会けんぽからは具体的な医療機関名を案内できないとのことであるが、どこで受診したらいいか困っている人もいるのではないか。

<事務局>

特定の病院をお知らせすることが難しいため、問い合わせのあったお客様へは、かかりつけ医に相談していただくか、もしくは、愛知県作成の「あいち医療情報ネット」を紹介して、その一覧からご自身で探していただくようにご案内しています。

<議長>

コロナ禍の状況では、安心して受診できるように、コロナ関係の医療機関とそれ以外の医療機関とグループ分けをしてのご案内ができればいいと思う。

<議長>

コロナ禍の中、従業員の方が受診を控えるケースなどありましたか。

<被保険者代表>

健診については無かったが、医療機関への受診については、「今すぐ必要ですか」といった問い合わせも多数あり、受診控えを感じた。

<保健医療関係者>

資料のスコアリングレポートは、愛知支部のものとして、愛知支部の職員が見るものなのか。

<事務局>

事業所向けのものではなく、愛知支部のスコアリングレポートになります。

主な用途としては、全 47 支部中の順位の確認やデータヘルス計画への役立てになります。

<被保険者代表>

スコアリングレポートの中に、業種・環境・年齢構造・事業所規模なども載っておれば次の戦略が立てやすいと思う。

<議長>

こういった資料があると、企業も全国的な傾向がわかり、またヘルスアップ通信簿と見比べることができるので、是非公開して欲しい。

<健康保険委員代表>

社内でも、経年のデータ変化や要受診のデータを管理しているが、社内だとデータ数も限られ、全国的なものはとても参考になる。

このような全国的なデータがあれば、自社の弱い部分も把握でき、非常にありがたい。他の企業にも役立つと思う。

また、当社では月に 1 回、経営者との打ち合わせの場を設けており、担当者だけでなく、経営層とも健康関係のデータ・情報を共有している。

<被保険者代表>

従業員に保健指導を案内する立場からすると、特定保健指導のことを知っている従業員は非常に少ないため、説明するにあたり、詳しく載っているパンフレットがあればありがたい。

<健康保険委員代表>

健診パンフレットについては、コピーして従業員に配っているが、見開きだとコピーもしづらい。冊子だとコピーも取りやすい。

<事務局>

見開きパンフレットの全国共通部分については、ホームページにも掲載していますので、是非活用していただきたいと思います。

<学識経験者>

協会のパンフレットは読み手、読者対象として誰を想定しているのか。

総務担当者には役立つが、経営者層で考えると、読む時間も限られているため、レイアウト

トの変更やコンパクトにまとめることで、ポイントがずっと飛び込んでくるような工夫が必要だと思う。

<学識経験者>

最近、保険者以外のいろいろな団体も健康づくりに取り組み始めている。

例えば、名古屋市や名古屋商工会議所が弓道やサイクリングなどのスポーツを通じてビジネスや健康づくりに繋げていくというものがある。

外部でこのような活動が行われているのだから、協会けんぽもそのようなところに支援を広げて、ともに活動していくことが重要だと思う。

<議長>

協会けんぽが全てやらなければいけないという訳ではなく、既にやっている団体・企業などがあれば、連携をしながら情報交換をしていけばメニューの多様性に広がっていく。

次回、令和3年12月頃開催予定。各委員に連絡し別途調整のうえ開催する旨伝える。